

FFG調査月報

MONTHLY REPORT

12

2019.DEC
VOL.124

Top Interview

株式会社 ムーンスター 代表取締役社長兼CEO 猪山 渡 氏

株式会社 秋吉 代表取締役社長 秋吉 美千生 氏

株式会社 稲沢鐵工 代表取締役 稲沢 文員 氏

滲透工業 株式会社 代表取締役社長 西 亮 氏

 福岡銀行

 熊本銀行

 親和銀行

 十八銀行



懐かしい
情景を
探して

Looking for a nostalgic scene

黄昏色の長湯温泉



▲芹川沿いの長湯温泉



▲湯乃原薬師如来堂内の温泉水

●湯乃原薬師如来堂

長湯温泉は湯乃原温泉と呼ばれていた。その中心は「湯乃河原湯」で現在の湯乃原天満社あたりである。すぐ横の如来堂で温泉水が飲める。

住所: 竹田市直入町大字長湯 7773-8

由布院の南に炭酸泉で有名な長湯温泉がある。長湯までの道は行き交う車も少なく、イノシシ注意の道路標識がめずらしい。種田山頭火は昭和5年11月に長湯に足を運び「宿までかまきりついてきたか」の句を詠み、旨い酒を飲んだのであろう。

芹川沿いに長く伸びた温泉街には、木造の宿がよく似合う。暮れていく温泉街に蒸気が立ちのぼり、懐かしい静謐な情景が現れる。散歩がてら外に出れば、共同湯あがりと思われるご婦人とすれ違ったあとには良き香気が漂う。

やがて湯宿に灯りがともり始め、ネオンがないこの小さな町を夜のとばりが包んでいく。今宵の地酒のさぞかし旨かろう。しかし、その前に薬師如来堂で糖尿病に効くという泉水を飲んでいくとしますか。

(文・阿井川 圭)

CONTENTS



懐かしい情景を探して 黄昏色の長湯温泉

26 九州の逸品
長崎雲仙オムライス

Top Interview

- 2 福岡銀行
株式会社 ムーンスター 代表取締役社長兼CEO
猪山 渡 氏
- 8 熊本銀行
株式会社 秋吉 代表取締役社長
秋吉 美千生 氏
- 14 親和銀行
株式会社 稲沢鐵工 代表取締役
稲沢 文員 氏
- 20 十八銀行
滲透工業 株式会社 代表取締役社長
西 亮 氏

28 地域と共生する FFG
長崎県 時津町

32 地域とつながるFFG連携プロジェクト
福岡県 嘉麻市・行橋市

34 調査レポート
設備工事業界を取り巻く環境の変化と
今後の事業者の方向性

40 海外進出最前線
ニューヨーク・一蘭グループ

44 知って対策 リスクに備える
職場におけるパワーハラスメント対策

48 九州の星 セーリング男子 470級
東京五輪日本代表内定(JR九州社員) 外蘭 潤平

バックナンバーのお知らせ

「FFG調査月報」のバックナンバーは、ふくおかフィナンシャルグループのホームページにてご覧いただけます。 <http://www.fukuoka-fg.com/>



今月の表紙 門司港駅(福岡県北九州市)

表紙の写真は、駅事務所の入口横にある呼び出しベルです。九州鉄道の起点として、1914年に門司駅(当時)として開業し、1988年に鉄道駅舎として初めて国の重要文化財に指定されました。現役の駅舎では門司港駅と東京駅の2つだけです。

老朽化への対応や耐震補強を行なうため2012年から復元工事が始まり、約6年の時をかけ2019年3月に大正時代の姿に復元されグランドオープンしました。ネオルネサンス様式の木造2階建ての駅舎は左右対称の造りが特徴的です。



 福岡銀行

常に新しい品質と技術で

靴を通して

お客様の快適な人生をサポートする。

株式会社ムーンスター

代表取締役社長兼CEO

猪山 渡氏
い やま わたる

取引店／福岡銀行 本店営業部

■会社概要

創業:1873年／設立:1931年／所在地:福岡県久留米市／資本金:
13億円／従業員:884名(2019年6月末時点)／事業内容:子ども
靴、スニーカー、紳士靴、婦人靴の製造・販売／事業拠点:久留米、
東京、大阪、名古屋、札幌、仙台、埼玉、静岡、京都、広島、尾道、松山



本社前(左から猪山社長、柴戸頭取)

『精品主義』と大量生産で商圏拡大

当社の歴史は今を遡ること146年前。1873年に23歳の青年・倉田雲平くらたうんぺいが福岡県久留米市で「つちやたび店」を開いたことに始まります。その当時足袋たびはまだ各家庭で作られることが多く、ようやく商店街の店先に出回り始めた頃で、粗悪品が多かったことに心を痛めた雲平は高級足袋の産地であった長崎に行つて製造技術を学び、品質の優れた足袋を作りたいという信念で『精品主義』を掲げ、一品一品に精魂を込めて縫い上げました。

店頭でお客様を待つだけでなく、箱車を引いて九州各地を回り文字通り一步一步販路を広げると、やがて品質の良さで評判となりました。耐久性のある良質な商品を安い価格で提供するため1894年に日本で初めてドイツ製ミシンを導入し、機械化による生産を開始しました。生産性が向上したこともあって全国展開にチャレンジすることを決意し、大阪・東京に支店を開設しました。1922年には地下足袋、さらには総ゴム靴や布靴の生産を開始し、業界トップクラスの座を不動の

ものにしました。

その後、熊本工場、三瀧工場を建設するなど事業を拡大。1959年には革靴、合成樹脂成型品、工業用製品の生産を開始し、1963年に輸出振興の功績によって業界初の内閣総理大臣賞を受賞しました。1993年に創業120年を迎え、大正時代に建設された歴史的建造物を「つきほし歴史館」として開設し、彫刻家で詩人の高村光太郎が制作した雲平の胸像をはじめ、過去の製品やポスター、写真などを展示しています。

久留米はゴム産業の発祥の地として知られていますが、この歴史館で当社の歩みとともに、久留米の歴史に触れていただけます。

最新科学を駆使した商品開発

今でも創業時からの精神である『精品主義』が当社のモットーです。例えば靴を製造するためには靴型（ラスト）が必要となりますが、当社は16,000種類もの靴型を保有しており、これは約26万人もの人から計測して得た貴重なデータをもとに制作したものです。





猪山社長

当社の優れた製品の陰には長い歴史で培った技術の積み重ねがあるのです。

歴史を大事にするとともに、常に新しい商品を生み出していく努力も惜しみません。お客様からいただいた声を大切にしながら国内外市場を綿密にリサーチし、デザイン・素材などのコンセプトを組み立てます。靴の素材として適しているかどうかを独自の厳しい基準で選び、自社内で新素材の開発も行なっています。

また一方でバイオメカニクス(生体力学)を駆使して人体の動きを徹底的に分析し、新製品開発に生かしています。より履きやすい靴として商品化するために靴専用のCADなど

最新の先端システムを備え、新製品は試作段階から徹底的に品質検査とテストを繰り返し、厳しい条件を満たした靴だけを製品にします。

ブランドを確立し海外展開にも

私は久留米で生まれ、小学生だった頃に当社を見学し三角屋根と高い煙突の景色の記憶が今でも残っています。その時は将来自分が働くことになるとは思っていませんでしたが、九州大学法学部を卒業して当社の幹部だった大学の先輩に勧められて入社しました。コンバース企画課長、営業統括部長、執行役員営業統括担当、取締役商品本部長調達担当などを経て、2010年に社長に就任しました。2013年に創業140周年を迎えたのを機に新たに「ムーンスター」ブランドのシンボルマークとロゴを制定しました。子ども、婦人、紳士用からスニーカーまで、それら全てが優れた品質を誇る当社の製品であることをイメージしていただくために製品のどこかに必ずブランド名を入れるようにしました。今ではブランド



8 6



4



5



7

- 1.工場見学風景／2.職人が一足ずつ手作業で製造するためクオリティが高い靴が生まれる／3.一足ずつ靴型を入れて形を整える／4.工場内に福岡県優秀技能者の表彰状が飾られている／5.6.成型後の靴を加硫缶に入れ、圧力と熱を加えることで、丈夫で弾力性のあるゴムになる／7.東京・銀座の総合旗艦店「MOONSTAR Factory Ginza」／8.企業メッセージ(つきほし歴史館内)



前列左2番目から古達執行役員、山野執行役員、片渕取締役、山中常務取締役、猪山社長、柴戸頭取、高田本店営業部長(福岡銀行)

としての「ムーンスター」の名が広く知られるようになり手ごたえを感じているところです。

また4年後に迎える創業150周年を見据えた「MSビジョン150」をスタートさせ、「消費者との接点の強化・拡大」「大人・シニア市場の拡大」「海外展開拡大」という3つの目標を掲げました。オンラインショップでの販売は順調に伸びており、大人・シニア向けではビジネスシューズ「バランスワークス」が柔らかさと安定性を両立させ快適な着用感で好評をいただいています。当社の主力である子ども・ジュニア向けでも「スーパースター」「キャロット」の販売は好調です。海外展開では、ラスベガスで開催されるアパレルの展示会やパリのファッション商談会に積極的に参加しています。中国では中国最大のモールサイトに出店し、子ども靴を中心に販売しています。

「MADE IN KURUME」

銀座に初の旗艦店

当社は製品の70%を海外の工場で生産していますが、久留米本社で生産した製品の一部

に「MADE IN KURUME」と標して発売し、久留米で守り育てた技術によって生み出した製品に自信と誇りを持って世界に向けて発信しています。

このスニーカーはヴァルカナイズ製法(※)で生産しています。この製法は作業が難しく複雑なことから国内メーカーでは数えるほどしか使われていませんが、当社が持つ技術の粋を集めて高度な品質管理システムを実現しました。この製法から生み出される靴には、ソールがしなやかで柔らかく、かつ丈夫で壊れにくく、美しいシルエットが保てるという特徴があります。そして何より熟練の手仕事(クラフトマンシップ)で生み出される精巧で美しい作りの良さも評価され、生産が追いつかない状態になつてラインを増強したほどです。

昨年、東京・銀座に当社初となる旗艦店「MOONSTAR Factory Ginza」をオープンし、「MADE IN KURUME」をはじめ子どもから大人向けまで幅広いムーンスターブランドの商品を紹介・販売しています。ムーンスターブランドの世界観を発信する拠点と位置付け、お客様との接点を強化・拡大するための

取り組みで、商品を通じてモノづくりや歴史を共有し、ムーンスターブランドを深く知っていただくことが目標です。各種イベントも開催して当社の技術力を体感していただき、「モノ・コト」双方の発信をしています。

また子ども靴専門店「Genki Kids」を北海道から九州・沖縄まで全国展開し、フィッティングを重視した接客を行い、子どもたちの健全な足の発育のための靴選びをお手伝いしています。

足は第二の心臓と言われるほど非常に大切なものであり、当社は先人達が積み重ねてきた技術、受け継いできた志を大事にし、「Time with pride. ひたむきに、歩み続ける」というスローガンの下、お客様の快適な人生をサポートすることを目指してまいりました。これからも時代とともに市場は目まぐるしく変わっていくかと思いますが、変化を捉え、常に新しい感覚でチャレンジし、履かれる方への思いを込めて一足一足作り上げ、「笑顔」と「しあわせ」をお届けしたいと思っています。

(※)生ゴムに硫黄を加えて熱反応させることでソールとアッパーを接着する製法。

■ インタビューを終えて

福岡銀行 取締役頭取 柴戸 隆成

創業者が掲げられた『精品主義』のもと、140年余りの間、職人による一足ずつ丁寧な製造を続けられ、今の「ムーンスター」ブランドを確立されました。

その歩みは、ゴム産業の街として知られる久留米の歴史と重なるとともに、日本のモノづくりの歴史でもあります。

創業150年を見据えて新たなブランドを立ち上げられ、東京・銀座に旗艦店をオープンされるなど、新たな領域を切り開かれています。

これからも久留米発の技術で、世界中のお客様の快適な人生をサポートされることを期待しております。





トップに聞く!

 熊本銀行

職人の技と真心を込めてつくる
高品質な畳をお届けします。

株式会社 秋吉^{あきよし}

代表取締役社長
秋吉 美千生^{あきよし みちお}氏

取引店／熊本銀行 小国支店

■会社概要

創業:1898年／設立:1972年／所在地:熊本県阿蘇郡小国町／
資本金:1,000万円／従業員:33名／事業内容:畳の新調・表替え・
裏返し、置き畳・フローリング畳等の製造・販売、障子・襖・網戸の修理
／事業拠点:熊本県阿蘇郡小国町、福岡県福津市



本社前(左から秋吉社長、野村頭取)

マンションブームに乗って急成長

畳は長い歴史を持つ日本独自の床材です。当社は、い草生産日本一の熊本で畳の製造・販売・設置工事を行うとともに、畳の文化を守り、その魅力を後世に伝える役割を担っています。

当社の創業は1898年。曾祖父が大部分県日田市で創業し、祖父、父へと受け継がれる中で、小国町に移りました。当社にとって大きな転機となったのが、1964年の『やまなみハイウェイ』開通により阿蘇地方で旅館・ホテルの建設ラッシュが続き、その際に多くのゼネコンと取引を開始したことです。

高度経済成長の波に乗り、次々にアパート・団地の建設が進んだことから、当社への畳の新調の注文が右肩上がりに増えていきました。ゼネコンとお付き合いをさせていただくには、品質・納期・コスト等の条件が必至ですが、とくに納期の厳守は絶対条件です。労苦を厭わず働き、必ず納期を守る当社の姿勢をゼネコンは評価していただいたのでしょう。

後々家業を引き継ぐことを決心していた

私は、熊本市内の高校を卒業後、名古屋の大学に進学し、昼は高級家具メーカーで工場勤務、夜は大学で学ぶという生活を4年間送りました。この時、工場の製造ラインで安定的・効率的に生産されるのを間近で見ることができた経験は、家業の畳の製造とは規模も方法も異なりますが、「ものづくり」という意味では共通する点が多く、現在の当社の工場でもそのノウハウを活かされています。

厳しい修業の後に家業を引き継ぎ

大学を卒業するとすぐに父に呼び戻され、家業の見習い修業から始めました。子どもの頃から手伝いはしていたので少々の知見はありましたが、実際にやってみると想像をはるかに超える苦労がありました。

まず注文を受けると九州各県、山口県にまで出掛け、現場で部屋の寸法を測り、畳を作って敷き詰める作業は時間も体力も使う重労働です。納期を守ることが絶対条件なので、どんなに夜遅くなっても作業が終わるまで帰ることはありませんでした。





秋吉社長

畳で快適な生活

そのような厳しい修行を経て、1996年に父が小国町の町会議員に就任したことを機に、私が4代目を引き継ぎ、現在では国家資格の畳技能士1級取得者4人、2級取得者4人を擁する優秀な職人集団を率いています。引き続き必ず納期を守る会社として信頼され、現在は九州のマンシヨンの畳設置工事のシェアは80%を超えています。

生活様式が変化し、和室の需要つまりは

畳の需要が減少していく中で同業者は次々と廃業に追い込まれています。そのような中、当社が生き残ることができているのは、畳を通じて「ものづくり」の楽しさ、喜びとともに明治期から続く家業を守り、畳という素晴らしい文化を次世代に残したいという強い想いがあるからです。

畳は平安時代に生まれ、当初は高貴な職位の人だけが使っていました。江戸時代から庶民の間にも広まりました。畳は日本の気候や風土、生活文化から生まれた素晴らしい床材です。畳表に使われるい草は湿気を吸収・放出する機能とともに保温性、断熱性があり、空気の清浄化や人間の集中力を高めてくれるという効果もある優れた素材です。とりわけ熊本県産い草は優しい香りとさらりとした肌ざわりを持つ高品質な素材として知られています。畳床は20〜30年も使えるほど耐久性があり、畳表も表替えして両面が使用できるので経済性においても優れています。近年は衛生面や使い易さに配慮した和紙製や樹脂製などの新しい素材も増えてきています。



8 6



1. 畳製造工場を見学／2. 丁寧な仕事をする職人たち／4. 5. 6. 高級な友禅を畳縁に使用した畳／7. 子ども向けに小さなサイズでもオーダー可能／8. 企業メッセージ





前列左5番目から秋吉社長、野村頭取、宮川支店長(熊本銀行)

直接販売で接点拡大 フローリング専用置き畳 「OITOKO」 おいとこ

時代の変化に対応して個人のお客様に直接製品を販売する「BtoC」を今後の経営の柱に育てるために1998年、福岡市のベッドタウンとして開発が進んでいる福津市に福岡店を開設しました。長男・智文^{しぶん}が陣頭指揮を執り、個人のお客様への販売に力を入れて着実に経営基盤を固めています。新商品開発のために地元の若い世代のお客様を対象に試作品のモニターをお願いするといった福岡店でしかできないことも試みています。

現在、当社が注力している製品がフローリング専用の置き畳「OITOKO」で、サイズは3種類の正方形、素材も熊本県産の草や樹脂、和紙の3種類でラインナップを構成しています。撥水性が高いので飲み物をこぼしてもすぐにふき取ることができるうえ、子どもでも持ち運べるほど軽いために、季節や気分に合わせて模様替えや収納も簡単にできるので徐々に売り上げも伸びつつあります。

『友禅』の置き畳の研究と海外展開 ゼロエミッションの達成

新商品として日本の代表的な染色法である友禅を畳縁にする置き畳を、熊本の染色家と共同で研究中です。雄大な阿蘇・大観峰や美しい天草の海、熊本城の石垣などをイメージした友禅で試作を重ねており、畳職人が精魂込めて作りあげた友禅の畳の上で、豪華な和の空間を満喫していただける日もそう遠くないでしょう。

若い世代の顧客を増やすためのネット販売の強化とともに、近年ヨーロッパ等の海外で日本の畳文化が注目されていることから、将来に備えて海外展開も検討しています。

一方で作業効率化のために自動化・機械化を進め、3基のコンピュータラインを導入しました。畳業界では珍しい製造工程で出る端材・廃材を燃料にする温風乾燥施設も備え、ゼロエミッション（※）を目指しています。

（※）環境を汚染し気候に悪影響を与える廃棄物を排出しないシステム

お客様の立場で考え品質向上 職場環境の整備と地域貢献を目指す

海外からの旅行者の間では、宿泊の際にホテルではなく旅館を希望する方が増えていますが、日本独自の文化を実感したいことに加え、畳だけが持つ和の味わいを感じたいからではないでしょうか。畳はこれからも私たちの暮らしに安らぎと癒しを与える、この国になくはない文化であると確信しています。

当社の目標は、日本の自然と風土の調和から生まれた畳を通して、住みやすい生活空間を提供することであり、常に時代の変化に即応し、使用されるお客様の立場になつて考え行動し、お客様の満足を得なくてはなりません。

社員には仕事を通して生きがいのある人生を過ごしてもらうため、さらに職場環境を整えて、社員満足度地域ナンバーワン企業を目指します。

本社のある小国は、九州の東西と南北の軸が交差する中心に位置し、大いなる発展の可能性を秘めた地です。この地の人々の雇用を支えつつ、今後も成長・発展し続けることで地域社会に貢献してまいります。

■ インタビューを終えて

熊本銀行 取締役頭取 野村 俊巳

明治期から代々受け継がれた技術と職人氣質で、九州のマンション用畳の製造・販売で80%以上のシェアを誇っておられます。

日本人の生活様式が変化する中で将来を展望し、“消費者の顔が見える”販売を目指して新たな拠点を設け新製品を開発するなど、畳の文化継承にも意欲的に取り組まれています。

平安時代から続く、日本の風土と生活様式に溶け込んだ畳の素晴らしさを、後世に伝えつつ、今後も発展されることを願っています。





 親和銀行

守る経営から育て攻める経営へ。
デザイン性のある高品質な階段で、
ハイクラスな建築物を演出する。

株式会社 稲沢鐵工

いなざわ てつこう

代表取締役
稲沢 文員 氏

いなざわ ふみかず

取引店／親和銀行 松浦支店

■会社概要

創業:1955年／設立:1976年／所在地:長崎県松浦市／資本金:
4,500万円／従業員:30名／事業内容:スチール製階段・室内用デザ
イン階段・手摺・鋼構造物等の設計・製作・加工／事業拠点:(本社
工場)長崎県松浦市(佐世保工場)長崎県佐世保市(東京オフィス)
東京都新宿区



本社前(左から稲沢社長、吉澤頭取)

鍛冶屋として創業し鉄骨工事業へ

一般住宅を始めとして、商業施設などあらゆる建物で上下階をつなぐ手段として用いられる階段。機能性ばかりに目が行きがちですが、デザイン性によって、空間のアクセントとなったり、周囲と溶け合う調和が安心感につながったりと、理想の住まいや機能美を追求するうえでとても重要な空間アイテムです。実際に、当社が提案するデザイン階段は多くの住宅や商業施設で使用されており、右肩上がりで受注を伸ばしています。

そのような当社も、元々は父の代に稲沢鍛冶屋として1955年、創業したのが始まりであり、当初は船舶用の船釘や農機具などを製作していました。1965年頃になると、溶接機の普及に伴って手摺や軽量鉄骨梁なども受注するようになって鍛冶屋と並行して鉄骨工事の仕事も増え、1976年には有限会社稲沢鉄工所の設立に至りました。当時、長男の私は将来的に家業を継ぐべく、地元の工業高校から建築専門学校へ進んだ後、京都の建築設計事務所へ入所して、建築の基礎を学んで

いました。

ところで、父が鍛冶屋になったのは、幼少時によく風邪をひいていたため、鉄を溶かす炉のある鍛冶屋なら冬場でも暖かく仕事ができるであろうと勧めた、祖母の親心からだったそうです。私が子どものころに見た、父と母が交互に真っ赤な鉄を金槌で打ちすえながら仕事に励んでいた姿は、今も鮮明に脳裏に焼き付いています。

競争激化の波が押し寄せるなか 可能性を見出した階段事業へ参入

1979年に父が亡くなると母が代表を務めることとなり、その4年後に私が帰郷した時には、6名いた社員は3名と半分になっていました。当時の受注単価は安く経営的には苦しい状況であったため、私は、昼間は鉄工所で働き、夜は設計事務所の下請けで図面を作成する毎日。さらに、バブル経済の崩壊による景況悪化、競争激化による受注価格のさらなる下落が続きました。苦境を打開するために、1990年に新工場（現：本社工場）を建設。



2 1



3





稲沢社長

1992年には資本金を1,000万円に増資。CADを導入した設計に変え、生産性を上げる試みに力を注ぎました。

1996年には他社との競争を避けるため、ニッチな分野である軽量形鋼の事業に着手しました。さらに、当時ある縁で知り合った日本階段協会の田上鉄工さん（岐阜県）などから話をうかがうなかで、階段工事の可能性と将来性を知り、他社との差別化を推し進める目的で、1999年に階段事業部を立ち上げました。同年には私が代表取締役就任。帰郷時にわずか3名だった社員は14名に増えました。

経営の原理原則に立ち返って 長期的な視点で施策を実行

階段は、設計面ではステップの幅や高さが個別に異なり、製作過程では仕上げ塗装に高度な技術が必要です。当社には鉄製品加工の技術はありましたが、階段事業部の設立当初は、すべてが試行錯誤の連続でした。プラズマ切断機やプレス機を導入して増産体制に入っただものの、10年近くは経営上の迷走期にあったと思います。それでも、品質管理向上を目指してISO9001・2001を取得し、2005年に長崎県経営革新事業所の認定を受け、中小企業家同友会、佐世保経営革新塾などで経営の原理原則を学びました。当時トレンドとなりつつあったデザイナーズ階段の試作にも取り組んだ結果、デザイン性の高さを誇るハウスメーカーから採用されるなど、経営の再構築期の入口によりやく立てました。

長かった苦境からようやく脱する機会を得られたのは、経営を本質的に学んだ経験によって、あせらずに3年後、5年後のあるべき姿を見据え、それを実現する仕組みづくりの大切さ



9 6



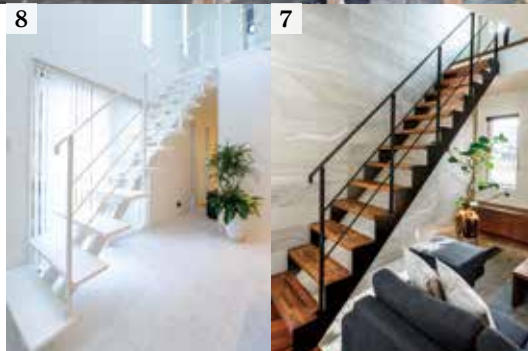
8



4



5



7

1.本社内での対談風景／2.ペタランの設計士が解説／3.CADを学ぶインドネシアの技能実習生／4.最新のレーザー切断機を見学／5.切断・溶接後の階段／6.階段を塗装する様子／7.8.製品施工事例／9.企業メッセージ



前列左7番目から稲沢社長、吉澤頭取、上野支店長（親和銀行）

を知ったのが大きかったと思います。

設備・技術・サービスを進化させ 複合的に強みを発揮する

現在、全国の工務店、建材商社、個人などからの依頼により階段事業での受注は年々伸び続け、2019年末の年間出荷台数は1,000台を上回っています。階段商品の出荷数としては全国トップレベルにあるといえるでしょう。その要因のひとつは、高品質・高速加工の実現です。プラズマ切断機に加えて、熱切断の分野では最新のレーザー切断機を併用することで、仕上りの精度を高めました。金属部の塗装に関しては、下塗り、磨き、塗装の工程で3回塗りの手間をかけ、鉄工事業で培ってきた塗装技術で高品位の仕上りを追求しています。

さらに、デザイン開発段階でセミオーダー生産の階段を軽量化し、組み立て式に進化させて、商品の自社梱包、自社配送の仕組みを構築。当社の多彩な商品ラインナップを国内各地へと届ける、よりスピーディーな配送を可能にしたのも、需要の伸展につながっていると

います。

どんなにオリジナリティーの高い事業であっても、いずれは必ず競争相手が出てくるものです。独自のコア・コンピタンスをさらに揺るぎないものにしていくには、商品力に加えて、サービス力もますます強化していく必要がありますでしょう。また、将来性を期待できる海外市場も視野に入れる意味で、当初は人手不足から始めたインドネシアからの研修生受け入れも、海外展開の足掛かりとなるよう、人材育成に力を入れているところです。

それから、今年の11月から松浦商工会議所の会頭を務めさせていただいております。私自身を育んでくれた土地に少しでも恩返しをする意味で、会員企業との連携を図りつつ組織を進化させ、若い世代が豊かなビジョンを描ける松浦にしていけるよう、力を尽くしていくつもりです。

自社の未来を開拓するのは 改善への飽くなき挑戦

「当社は、今年6月から「New INATETSU

ワクワク大作戦」品質不良0への挑戦」と銘打った取り組みをスタートさせました。これは、自社技術にまだまだある課題を解決し、設計ミスなどのヒューマンエラーをなくしていくための活動であり、定期的なミーティングによる課題把握と対策の共有を通じて、技術者のスキルアップとモチベーション向上を目指しています。商品の製造現場における取り組みとしては、ごく当たり前の話かもしれませんが、企業経営においては、当たり前の行動を継続的に長く続けることがとても大切。外部からは「よくやっているね」などと言われたりしますが、やるべきことはやる、やるならいち早くやる、の姿勢を今後も貫いていきたいと考えております。

思い起こせば、当社を起こした父が鍛冶屋から鉄工所へと、経営の舵を切ったのも当時としてはかなり早かった。そういった意味で、経営判断という点においては、結果的に父の血筋を引き継いでいるのかもしれない。

■ インタビューを終えて

親和銀行 取締役頭取 吉澤 俊介

松浦市の製造業として雇用を創出し、地場産業としての存在感を示す一方で、松浦市工業会のリーダー、さらに11月からは松浦商工会議所の会頭にも就任され、当地の活性化に貢献しておられます。

情報発信にも積極的に取り組み、東京で毎年開催される全国規模の展示会では新商品を出展し続け、より付加価値の高い商品開発に反映させておられます。日本全国はもとより、海外でも幅広くその名を知られる企業として躍進されることを期待しています。





18bank 十八銀行

製鋼現場から自動車部品まで。
表面改質のパイオニア。

しんとうこうぎょう
滲透工業株式会社

にし まこと
西 亮 氏

取引店／十八銀行 時津支店

■会社概要

創業:1948年／設立:1953年／所在地:長崎県西彼杵郡時津町／
資本金:6,000万円／従業員:187名／事業内容:金属材料の表面
改質処理、耐火物・保温材等の素材・製品提供、技術提案／事業拠点:
(本社・工場)長崎、いわき／子会社・関係会社:滲透工業姫路(株)、シン
トー・イタリア S.p.A.、P.T.シントー・ランス・インドネシア



本社前(左から西社長、森頭取)

金属の特性を変える表面処理技術 製鋼現場から自動車まで

当社が得意とするのが金属拡散浸透技術による金属の表面改質です。金属素地にガス状にしたアルミニウム、クロム、バナジウム、チタン等の耐食性や耐熱性、耐摩耗性を有する金属を母材の表面に析出^{せきしゅつ}させ、さらに滲ませることによって合金層を形成させることで、高温酸化や摩耗、腐食等から母材を守ります。めっき加工のように剥離することもないため、長期間過酷な環境下で継続的に使用することも可能になり、当社の持つこの表面改質技術を施した部材は、1,000℃以上となる製鋼炉内部や、高温環境下で使用される自動車エンジンのターボチャージャーの部品として使用されています。

金属表面にアルミニウムと母材主成分との合金層を形成させる表面処理法がカロライジング処理、クロムとの合金層を形成させる表面処理法がクロマイジング処理、カロライジング層の中にセラミックス層を形成させる表面処理法がアルプレックス処理で、使用される

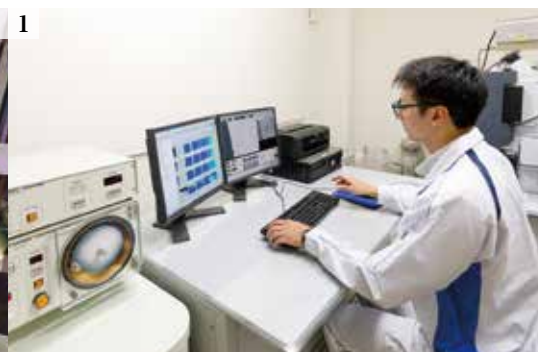
環境と目的に応じて処理の方法を分けています。

製鋼所や発電所、産業機械メーカー等の工場で使用される金属部品は過酷な環境下で使用されるため、表面加工をしなくてはすぐに劣化して製品製造に支障をきたします。当社の持つ表面改質の技術により、部材の寿命は3～5倍となり、部材購入やメンテナンスにかかるコストを削減、同時に部材の取替え頻度の軽減と設備トラブルを減少させることができます。でき生産性も向上します。

国内では長崎、いわき、姫路の3工場を置き、製鋼用製品においては80%以上のシェアを持つほか、海外ではイタリア、インドネシアに製造拠点をもち、世界数十カ国の製鉄所や自動車メーカーに向けて製造・販売しています。

長崎でランスパイプ製造 製鉄業とともに成長

当社の創業は1948年。私の父・淳^{すなお}が、第二次世界大戦後にシベリア抑留から帰国すると福岡市内の合金会社に勤めた後に長崎市内





西社長

で独立しました。独立後しばらくは造船会社のボイラー周辺の仕事をし、独自にカロライジング処理技術を開発すると、製鋼現場で使うランスパイプ(※1)の生産を始めました。通常の鉄製パイプでは高温環境下のために先端の溶解や、高温酸化が進むなどしてしまいますが、表面をカロライジング処理されたランスパイプは、3倍以上に寿命が延びるなどの結果をもたらし、これまで国内のみならず海外14カ国で特許を取得しています。

わずか32坪ほどの小さな工場からスタートし、当初はかなり苦労したそうですが、「鉄は国家なり」と呼ばれるほどに鉄鋼産業が盛ん

になり、その恩恵を受けて需要を伸ばし、生産体制を整えることで事業を拡大していきました。

その後も製鋼現場からの要望に応えるかたちで、耐熱性・耐食性に優れたさまざまな金属の表面加工を行うことになりました。

当社の主力製品の一つでもある押湯保温材(※2)は、铸件や鉄製品を生産するために必要不可欠な製品です。铸件は溶かした鉄を鑄型と呼ばれる金型に流し込んで生産しますが、鑄型に押湯保温材を詰め込むことによって壊れにくく傷のない铸件が取り出せます。押湯保温材の製造には高度な技術が求められますが、当時10社ほどあった同業メーカーは淘汰され、今では国内で製造できるのは当社を含めて3社しかありません。

時代の変遷とともに、金属拡散滲透技術もまたさまざまな製品に応用されるようになりました。ランスパイプの炉への自動挿入機を開発し、製鋼の作業効率を飛躍的に向上させました。それから高温下での焼付きを防ぎ、耐摩耗・耐食性を向上させる目的で自動車エンジン用タイミングチェーンやターボチャージャーの



8 6



4

1.2.新製品の需要・新しい技術を研究開発するR&Dセンター技術開発室を見学／3.4.自転車用チェーン製造の様子を見学／5.長崎工場見学風景／6.長崎工場の製造風景／7.FCV(燃料電池車)に使われる製品／8.企業メッセージ



7



5



前列左4番目から西社長、森頭取、岡支店長(十八銀行)

主要部品にも採用されています。また加熱・冷却を繰り返しても合金層が剥離しない特長を利用して、競技用オートバイ・自転車のチェーンピンにも使用されるようになりました。

(※1)電気炉の酸素吹込み管

(※2) 鋳物が冷却・凝固するときに収縮したり内部にすきまができたりのを防ぐため鋳型上部につくる湯だまり

日本・海外拠点から全世界へ 自動車産業にも進出

私は1975年に千葉工業大学工学部を卒業後に当社へ入社しました。当社の持つ優れた技術を現場で学び、その後、海外事業等さまざまな事業や工場の立ち上げに関わってきました。

現在、当社の技術・製品は実に多くの業種で使われています。国内では数十社ある鉄鋼・電炉メーカーのほか、自動車メーカー、造船、プラント、機械、窯業、石油、化学、製紙、電機、電子とさまざまな分野で使用されています。

海外でもイタリア工場・インドネシア工場から欧州全域や北欧諸国、中近東また中国、

韓国、台湾、インドネシア、フィリピン、タイ、マレーシア等のアジア諸国、さらに北米、中南米、アフリカ、オセアニアなど世界各国に出荷しています。

取引先が多いことは安定した需要を確保できることに加えて、相手先からさまざまな注文、要望が寄せられることで新しい製品を開発するきっかけになるなど大きな利点があります。現場に立ち会う機会もあり作業効率を改善するヒントを得ることもあります。

新しい製品需要・技術要求に 대응するためには常にイノベーションが必要です。2012年には本社・長崎工場に金属表面改質の開発を更に進めるため、R&Dセンターを設立すると同時に、EPM A（X線マイクロアナライザー・電子顕微鏡）も最新型に更新しました。また2013年には長崎工場に湿度や温度に左右されない除湿ヤードを新設し表面処理工程の自動化設備を設置、2017年には長崎工場で従来の環境基準をISO14001認証にアップグレードし、昨年は長崎工場の建屋を全面改修するなど大規模な設備刷新を実施しています。

父の教えを胸に時代の先を見据えて

私が日常から大切にしているのが「先駆者たれ」という父の言葉です。父の教えを胸に刻みつつ、2017年に当社の社是『創造への挑戦』を定めました。当社は長年にわたって培ってきた技術とノウハウによって出願中を含め、国内外で55件もの特許を取得しています。これこそが『創造への挑戦』の原点です。

現在でもFCV（燃料電池車）において当社の製品が採用されていますが、これからますます普及されることが期待されています。自動車産業は裾野の広い産業で、素材から部品、機械、電機、電子、石油化学、繊維、ゴム、ソフト関連企業、ロジスティックなど多くの企業が関わっており、これらの分野へのさらなる参入も視野に入れています。将来的には航空・宇宙産業への進出にも大いに期待しています。

時代は刻々と変化しています。科学技術の進展や社会情勢の変化、顧客ニーズの多様化などに対応して私たち自身も常に変化しなければなりません。これからの時代の一步先を見据えながら『創造への挑戦』を続けてまいります。

■ インタビューを終えて

十八銀行 取締役頭取 森 拓二郎

滲透工業様の持つ金属拡散滲透の技術は、社会基盤となる鉄鋼製品の製造や、九州を代表する産業となった自動車部品の製造に、今や欠かすことのできない技術となっています。また製品は国内主要メーカーにとどまらず、欧米やアジア諸国にまで届けられるなど、世界中の一流企業から信頼されるまでに実績を積み重ねてこられました。

これからも創業者の教えを大切にされ、常に先駆者として新しい時代を切り開かれていかれることを祈念いたします。



ムライス



FILE No.60

九州の「地域の特産品」を
ご紹介致します。



長崎県大村市のカフェ・イタリアン
バル「テラスフィールド」。山口祐一店
長兼料理長が考案した、長崎県産食材
にこだわった「長崎雲仙オムライス」
が、全国のおムライス日本一を決める
「KAGOMEオムライススタジアム
2019」(株式会社カゴメ主催)で準
グランプリを獲得しました。

ひだ状にしたふわふわの卵を雲仙岳
に見立て、ライスには島原産のじゃが
いもを混ぜ、ソースは長崎和牛をふん
だんに使ったボロネーゼにして、長崎
県産の野菜を添えています。

オール長崎で作られたオムライス。
長崎県産の野菜や卵、肉の美味しさを
十分に堪能する一品が出来る逸品です。

地域と
共生する
FFG

長崎県産食材にこだわった 長崎雲仙才



写真右／盛付けする山口店長兼料理長
左／テラスフィールドのみなさん

長崎県

TOGITSU TOWN



時津町

長崎県

時津町



時津町の全景

海と山と快適さがある町 時津町

時津町は、長崎市の北部に位置し、市街地までは、車で約20分という好立地で、町から長崎市内まで通勤通学する姿が多く見られる一方、町へも通勤や買い物などで多くの方が訪れる賑わいのある町です。

さらに時津港から長崎空港までは、高速船で約25分とアクセスが便利で、出張や帰省、2拠点ワークなどもスムーズです。

また、町を通る主要道路である国道206号沿いには、大型商業施設が軒を連ねます。

近年は町内への企業進出が進み、働く場があること、豊かな自然と便利な都市機能がバランスよく存在することなどの理由から、県内外からの転入者も多い町です。

これからも町の将来像である「生活都市とぎつー誰かが住みたくなる町へー」の実現に向けて、より快適で活力のある町づくりに取り組んでいます。

Famous place / 名所



鯨くさかし岩

鯨くさかし岩 (継石坊主)

なんともユーモラスなこの名前は、その昔、この岩の下を通りかかった魚売りが、今にも落ちんばかりの岩を怖がり、「落ちてから通ろう」と待ったものの、いつまでも落ちずに、結局持っていた鯨が腐ってしまったという民話に由来します。国道206号から眺めることができ、今では「落ちない岩」として受験生に人気です。

1947年、急勾配の途中で満員の客を乗せた木炭バスのブレーキが突然効かなくなってしまう。道路の脇には深い崖。鬼塚道男車掌はとつさに車輪の下に飛び込み、自分の身体でバスを止めました。自らを犠牲にして乗客の命を救った鬼塚さんを讃え、さらに交通事故をなくそうという決意を込めて、お地蔵さまが建てられています。

愛の地蔵 (打坂地蔵尊)



愛の地蔵

「日本二十六聖人 上陸の地」記念碑

「日本二十六聖人」とは、1597年2月、豊臣秀吉の命によって長崎で磔に処された26人のカトリック信者のこと。時津港には、その上陸を記念した碑が建てられています。彼杵から小舟に乗った一行は雪の舞う夜中に時津に着き、飢えと寒さと疲労に耐えながら船の中で最期の夜を過ごしたといわれています。翌朝26人は時津街道を歩いて長崎へ向かい、西坂の丘で処刑されました。



「日本二十六聖人上陸の地」記念碑

茶屋(本陣)

長崎街道には、実は裏街道といわれるものがあります。長崎市西坂から浦上、時津を経て彼杵の海路に繋がる「時津街道」です。役人や商人、文人など様々な人たちが行き交ったと言われ、いまでもその名残があります。その一つが「茶屋(本陣)」。諸大名や幕府の役人らが休憩や宿泊をしていた、歴史的価値が高い建築物です。



茶屋(本陣)

崎野自然公園

緑豊かな森と、大村湾を一望する眺望に恵まれた自然体験型の施設。テントやバンガロー、新設したコテージなどを備えたキャンプ場や、草スキー場、バーベキューがリーズナブルな料金で利用できます。最近では、ヤギのさきちゃん（黒ヤギ）、のんちゃん（白ヤギ）が仲間入りし、人気を博しています。



炭と食材さえあれば、広いバルコニーで海を見ながらバーベキューが楽しめる。2階のお風呂からも大村湾の絶景が！1泊、4人まで15,400円（※1人追加1,100円、最大6名まで）



2018年6月にオープンしたコテージ

時津ウォーターフロント公園

大村湾沿いに広がる「時津ウォーターフロント公園」には、ウォーキングやランニング、愛犬の散歩をする人の姿が。空気の良い場所での運動をライフスタイルに取り入れてみてはいかがでしょうか？敷地内には遊具や芝生ひろば、隣には漁協の直売所もあつて、にぎわいを見せています。



膝や腰に優しいゴムチップ舗装がされた海に面した遊歩道

文化の森公園

町の中心部にある文化施設とぎつかりホールに隣接した、緑豊かな公園。吊り橋やスリル満点の滑り台などの遊具があり、子どもたちに人気です。広々とした芝生が広がり、ピクニックなどに利用する人の姿も見られます。桜の季節は、花見客でにぎわいます。



文化の森公園にかかる大きな吊り橋

鳴鼓岳自然公園

約350m～390mの峰が連なる鳴鼓岳は、比較的登りやすい山として、登山客が多く訪れています。中腹にある駐車場周辺の花園では、園児から高齢者、企業の方など、様々な住民の方と協働でどんぐりや花木などを育てており、大村湾や町全体を一望しながら、季節ごとに色づく自然の美しさを楽しむことができます。



鳴鼓岳駐車場からの眺め

時津町民総活躍プロジェクト推進委員会 十八銀行・親和銀行プロジェクト参画へ

魅力と活力あふれる「とぎつ創生」に向け、町民一人ひとりが輝ける社会を築くため、2016年に「時津町民総活躍プロジェクト」を策定。このプロジェクトは本町の魅力を磨き上げ、たくさんの方々に訪れていただくまちを目指した5年間の計画です。

産学官連携により「時津町民総活躍プロジェクト推進委員会」が2017年度に発足し、当初から、十八銀行と親和銀行の地域振興部の行員が委員として、また両行の時津支店長がオブザーバーとして参画。

月1回開催される委員会では、事務局と連携しながら、各プロジェクトや事業の検討等を行っています。

引き続き両行で時津町の地方創生に向けた動きを支援すべく当委員会に参画してまいります。



プロジェクトに参加する両行担当者



鯖くさらかし岩キャラクターをモチーフにして制作されたグッズ

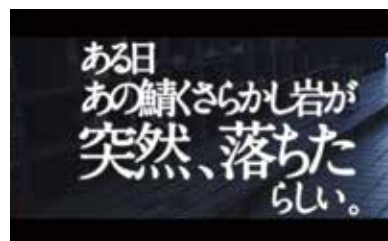
取り組みの一例 鯖くさらかし岩のPR

鯖くさらかし岩の「落ちそうで落ちない」イメージを活用し、受験生の応援を行おうと鯖くさらかし岩のキャラクターを考案し、受験生応援グッズの制作を行いました。

また、鯖くさらかし岩のアニメーションやテーマソングも制作。現在、テーマソングのプロモーション動画を制作中です。



時津町の地域資源の魅力を発信するPR動画



魅力発信に向けたPR動画の制作

本町の魅力を町内外に発信するため、話題性や魅力に富んだプロモーション動画の制作を行い、町ホームページやYouTubeなどで公開しています。

また、時津町の各種イベントや旬な情報をお届けしておりますので、ぜひご覧ください！



YouTube



時津町公式
ホームページ



観光情報サイト



Instagram



地域とつながるFFG連携プロジェクト

FFGグループの幅広いネットワークを活かした地域創生の具体的な実例をご紹介します。

地域創生への取り組み

現在、各地方自治体は、国の「まち・ひと・しごと総合戦略」に基づく「地方創生」の取り組みを推進しています。

FFGでは地域金融機関に期待される役割をグループ一体となって発揮していくため、各地方自治体と連携を強化し、各種施策や取り組みに積極的に参画していきます。

嘉麻市

KAMA CITY

2019年8月30日、ふくおかフィナンシャルグループ（以下、FFG）と嘉麻市及び福岡大学基盤研究機関連身体活動研究所（以下、研究所）は、地域経済の活性化を目指すとともに、学術研究成果の社会実装と人材育成に寄与することを目的に、連携協定を締結しました。

「ヘルスツーリズム」で商品開発

連携協定を基に今取り組んでいるのは、福岡大学が開発した、ゆっくりとした速度で長く走る「スロージョギング®」に、“観光×食”を掛け合わせた「ヘルスツーリズム」を活用した健康づくりの支援事業です。

本事業は、「嘉麻市の地域資源の活用」、「福岡大学の健康持続社会の実現を目指す福奏プロジェクト」、そして「FFGのお取引先との連携」を融合した産学官金連携によるプロジェクトです。

今後は、嘉麻市内の食材を使った健康食を提供するとともに、スロージョギングをしながら市内の観光地



スロージョギング体験の様子

銀行のネットワークを使いプロジェクトを支援

FFGは、2008年に福岡大学、2015年に嘉麻市とそれぞれ連携協定を締結しており、これまで様々な取り組みを実施してきました。この協定に基づく取り組みの一環として、2018年度に、嘉麻市とFFGが連携し、同年10月厚



記者会見の様子（左から）福岡銀行村本筑豊地区本部長 赤間市長 檜垣所長

生労働省の「実践型地域雇用創造事業」に採択されました。

実践型地域雇用創造事業とは、雇用機会が不足している地域における雇用創出の取り組みを支援する事業です。その事業の一つとして、研究所の協力による「ヘルスツーリズム」の開発を実施することで、地域雇用の創出ならびに交流人口の増加等、地域活性化につながる取り組みを実施してまいります。

(担当…福岡銀行公務金融法人部 鶴原)

行橋市

YUHASHI CITY

福岡銀行は、行橋市において実施される産学官金連携支援事業「本当に〇〇歳!?体力年齢マイナス10歳プロジェクト」市民の若返りにコミット」に参加しています。先に行われた記者会見で行橋市の田中純市長は「これは、福岡銀行との連携協定から始まり、地

域の課題を解決するために産学官金が力をあわせるプロジェクト。ぜひ成功させたい」と話されました。

産学官金連携の事業

弊行と行橋市は2015年7月に地方創生にかかる連携協定を締結しています。

その一環として、対面プログラムを実施するRIZAP株式会社(以下、RIZAP)、と福岡工業大学社会環境学部の榑崎教授や佐賀大学教育学部の山津准教授の知見を活かした、非対面プログラムを実施する正興ITソリューション株式会社(以下、正興ITソリューション)のサービスを組み合わせ事業化を進めています。

尚、(公財)福岡県産業・科学技術振興財団(ふくおかIST)との産学官金の連携協定に基づく事業の一環として、九州経済産業局の「地域中核企業ロー

カルイノベーション支援事業」の支援を受けています。

実施の具体的取り組み

本プロジェクトは、市民から参加者を募り、RIZAPが指導するプログラム(運動・食事管理)を行い、体力年齢の改善を目指します。

その後、正興ITソリューションが各大学の知見を活用し開発したアプリで非対面での運動指導を実施。運動を習慣付け、改善した体力年齢を維持させることで、行橋市の課題である市民の健康意識の向上、健康寿命の延伸を図ることを目的としています。

今後も地域に根ざした金融機関

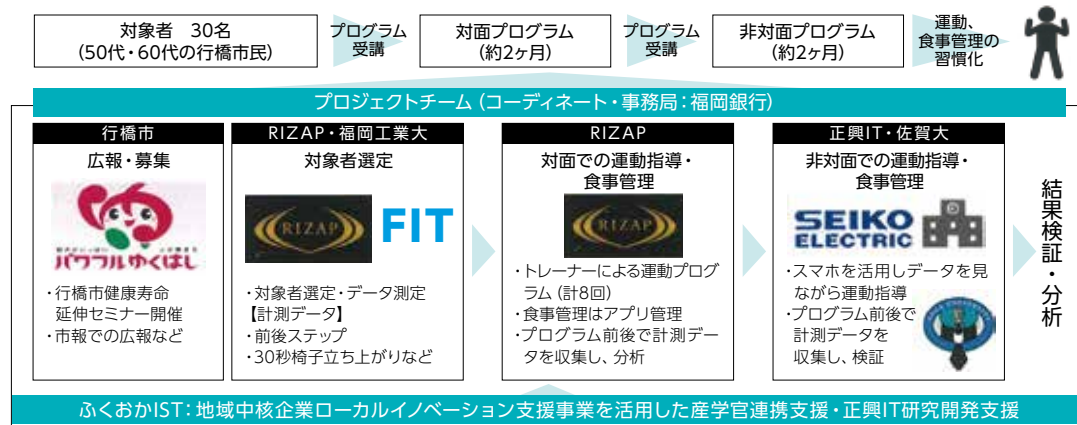


ライザップのプログラム実施風景



産学官金関係者による記者会見の様子

プロジェクトの概要図



として、地域経済の活性化や地域が抱える問題解決に積極的に取り組んでまいります。

(担当…福岡銀行公務金融法人部 黒田)

調査レポート

SURVEY REPORT

設備工事業界を取り巻く環境の変化と 今後の事業者の方向性

はじめに 「設備工事」とは

設備工事は、建設工事の中の一つに分類され、さらに工事内容によつて「電気工事」「管工事」「機械器具設置工事」「電気通信工事」「熱絶縁工事」「消防施設工事」「さく井工事」「その他の設備工事」に分けられます。また、設備工事の完成工事高（元請完成工事高＋下請完成工事高）は、建設工事全体の約25%を占めています（図1）。

建設業界の大きな特徴として、総合工事業者を頂点としたピラミッド型の取引構造となっていることが挙げられます。

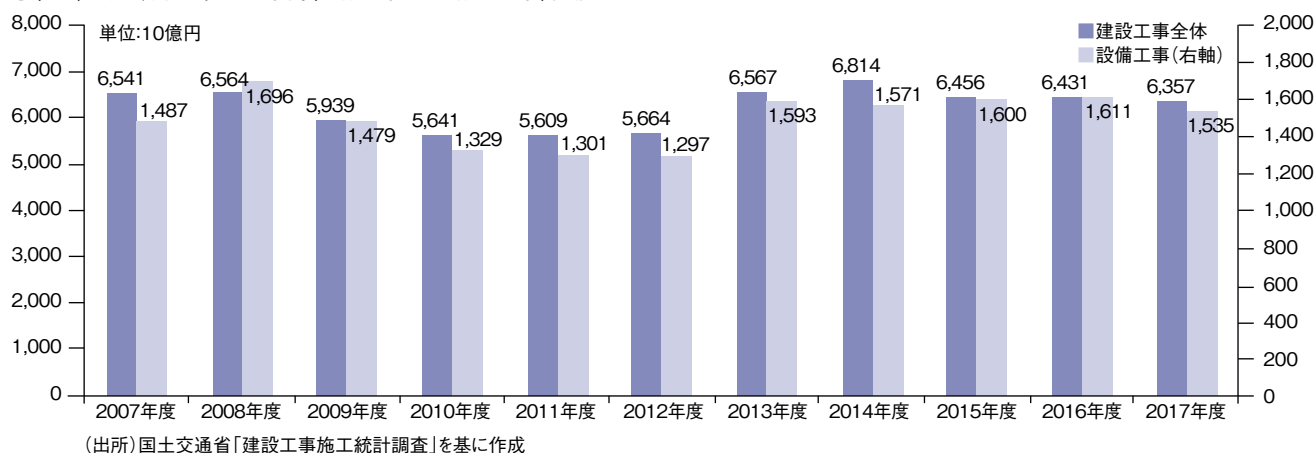
設備工事業者は総合工事業者やハウスメーカー等といった元請工事業者の下請事業者という位置付けで建設工事の一部を担うケースが多く、設備工事の完成工事高は、概ね建設工事全体の完成工事高に比例しています（図2）。

●(図1)建設工事の内容

建設工事		
総合工事	職別工事	設備工事
● 一般土木建築工事 ● 土木工事 ● 造園工事 ● 水道施設工事 ● 舗装工事 ● しゅんせつ工事 ● 建築工事 ● 木造建築工事	● 大工工事 ● とび・土工・コンクリート工事 ● 鉄骨工事 ● 鉄筋工事 ● 石工工事 ● 煉瓦・タイル・ブロック工事 ● 左官工事 ● 屋根工事 ● 金属製屋根工事 ● 板金工事 ● 塗装工事 ● ガラス工事 ● 建具工事 ● 防水工事 ● 内装工事 ● はつり・解体工事	● 電気工事 ● 管工事 ● 機械器具設置工事 ● 電気通信工事 ● 熱絶縁工事 ● 消防施設工事 ● さく井工事 ● その他の設備工事
完成工事高（元請完成工事高＋下請完成工事高）約87兆円に占める工事高の割合		
60.2%	14.8%	25.0%

（出所）国土交通省「平成29年度建設工事施工統計調査」を基に作成

●(図2)九州・沖縄の完成工事高(建設工事全体・設備工事)推移



但し、設備工事の中でも、電気通信事業者や機械器具設置工事業者については、通信事業者、発電事業者といった施主から直接受注を受けるケースも多くあります。

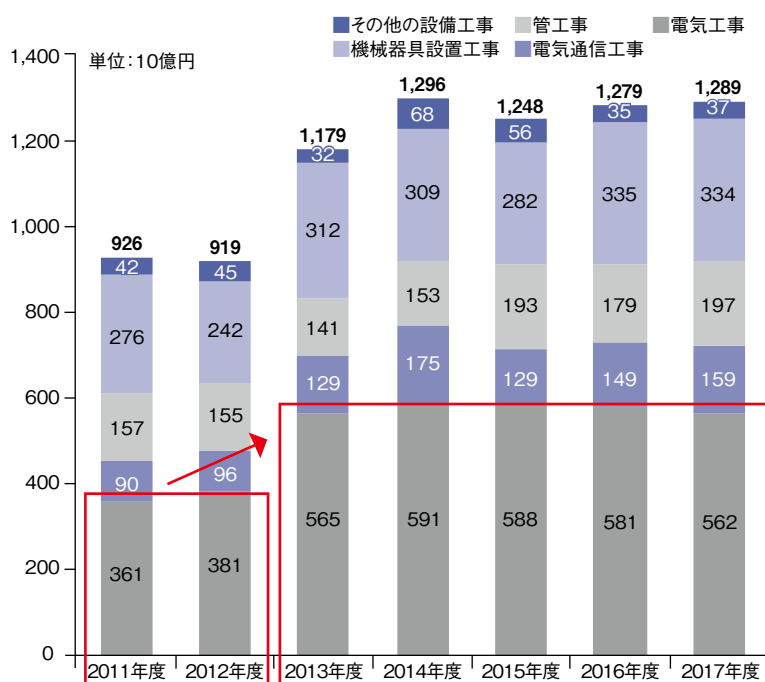
九州・沖縄の設備工事元請完成工事高は、2013年度以降、メガソーラー建設、太陽光パネル設置工事等が牽引するかたちで特に「電気工事」が大きく伸びています(図3)。

●変化①
取り巻く環境の変化
中長期的な建設市場の縮小・二極化

一般財団法人建設経済研究所の建設市場の中長期予測によれば、「経済が足元の潜在成長率並みで推移すると仮定したモデルでは、建設市場全体は今後縮小していく見込み」となっております。

要因としては、今後インフラ等の更新需要増加に伴い、維持・修繕は伸びることが見込まれる一方、

●(図3)九州・沖縄の工事種内容別の元請完成工事高推移



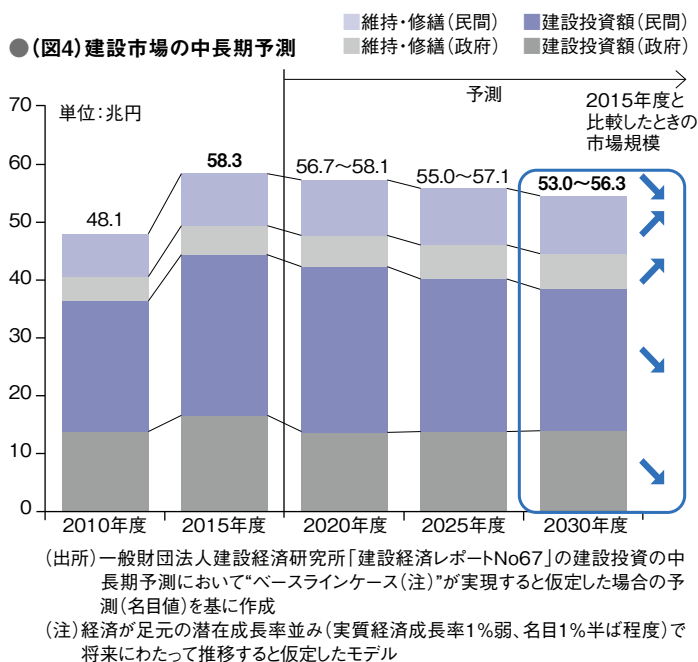
人口減少に伴い、建設投資額が大きく縮小していくためです(図4)。

また、再開発が進む東京や、「天神ビッグバン」・「博多コネクティッド」が本格化する福岡都市部といった人口集積地域と過疎化進行地域との間では、更なる二極化も考えられます。特に、九州においては、人口減少が全国平均を越えるペースで進んでいることから、建設市場の

●変化②
人手不足

建設技能労働者過不足率の推移をみると2012年以降、「建設工事全体」「設備工事(電気工事・管工事)」ともに不足の状態で推移しています(図5)。

縮小・二極化も全国平均を上回る水準で進む可能性があります。



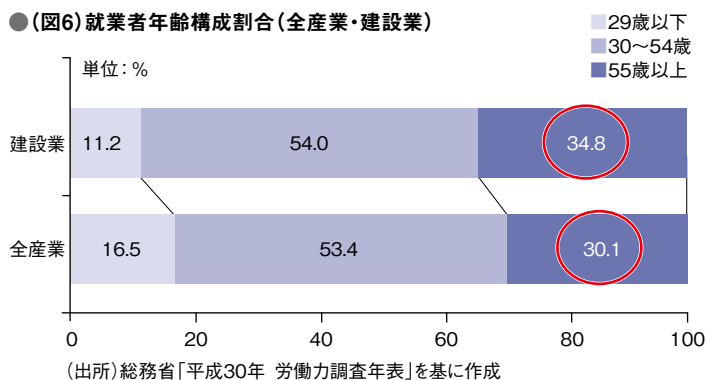
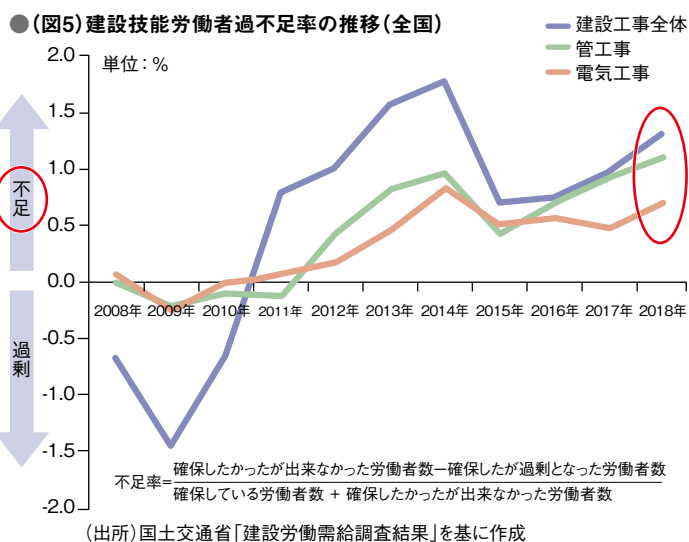
また、建設業の就業者の年齢構成をみると、全産業に比べ55歳以上の割合が高く、「人材の高齢化」が進んでいます(図6)。建設業の全就業者のうち55歳以上の割合が34.8%を占めており、この年代が退職していくことを考えると、将来的にも人手不足の状況が続くと考えられます。

最後に

今後の事業者の方向性

今後、事業者は中長期的な建設市場の縮小・二極化に向けて、より専門性の高い工事に進出することを通じた付加価値の向上や、事業領域・事業エリアの拡大による新たな市場開拓への取り組みが求められます。

その中でも、インフラ等の更新需



PROFILE



株式会社FFGビジネスコンサルティング
産業調査部
主任研究員

吉武 直紀

2008年 福岡銀行入行
その後政府系金融機関への出向等を経て
2018年より産業調査業務に従事

※本レポートの詳細版をご希望される方は各お取引店へお問合せください

長崎県産食料品の試食イベントを実施



▲11月1日の試食イベントの様子(ふくぎん本店広場)

F

FGビジネスコンサルティングは長崎県、長崎県食料産業クラスター協議会とともに、長崎県産食料品の「商品ニーズの調査・フィードバック事業」を展開しています。

2019年7月、長崎市の出島交流会館において長崎県内の食料品製造企業と全国から招聘した食品バイヤーや商業デザイナー等の専門家との個別相談会を実施するとともに、9月から11月にかけては、商品PRを兼ねた試食イベントを長崎県内を中心に、東京都や福岡県、佐賀県で実施しました。

11月1日、ふくぎん本店広場(福岡市中央区天神)において実施した試食イベントでは多くの方に長崎県産食料品を試食していただき、率直な感想や改善点を

アンケート方式で回答していただきました。これらアンケート結果や専門家のアドバイスを分析し、食料品製造企業にフィードバックすることで、商品改善に役立てていただくことを目的としています。

今後もFFGとFFGビジネスコンサルティングは、お取引先のビジネスチャンス拡大に役立つ機会のご提供に努めてまいります。



▲出島交流会館での個別相談会の様子

FFGが提供する新たなビジネスマッチング

ビジネス マッチング システム

FFG BMS 始動

〈お客様の様々な悩みを支援〉

販路拡大・商品開発・業務効率化 etc...





FFGBMSで出来ること

問合せ先は
コチラ

ビジネスサポート部
佐藤

念願の新商品を作り上げたけど、需要が本当にあるのかわからない。需要があれば既存取引先よりもさらに範囲を広げて商品を販売していきたい…。

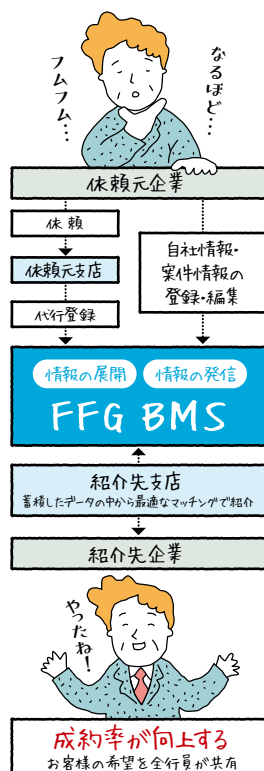
新商品は作った本人たちは良いものであることがわかつているが、本当に消費者の需要があるのかどうかはわからない。また、どのようにして販路拡大をしていくか等の悩みもあり、その悩みを解決しないまま販売していくと失敗し、なんとも悲しい結果になることも…。



FFGBMSを活用する事により悩みをサ
クツと解決。販売側、仕入側、銀行側、みんなが
ハッピーに！

FFGBMSは行員がお客様からの依頼を受け、依頼内容の登録を行うことでFFG全体に情報共有され、幅広いネットワークを活用する事が可能となります。また、その登録情報をお客様自身が直接編集することも可能です。つまり、お客様が伝えたい事を直接FFGへ展開する事が可能となりました。お客様の情報をもとにFFGの行員が考え、動き、提案を行う事でマッチング可能な企業の探索を行います。加えて、FFGとの提携会社からの紹介もあるため、多角的な視点でお客様をサポートし、解決できる新システム、それがFFGBMS！

(次回はF F G B M S制作秘話を予定)





New York Representative Office

海外進出最前線・ニューヨーク



▲ICHIRAN U.S.A., INC.の米屋ディレクター(ブルックリン店にて)

海外に進出されている福岡銀行渡辺通支店のお取引先企業グループのご紹介です。



株式会社一蘭

ICHIRAN U.S.A., INC.

PROFILE

現地法人：ICHIRAN U.S.A., INC.
住 所：374 Johnson Avenue
Brooklyn, NY 11206
T E L：718-381-0493

親 会 社：株式会社一蘭
住 所：福岡市博多区中洲5-3-2
一蘭本社ビル
T E L：092-282-1111

はじめに

株式会社一蘭(以下、一蘭グループ)は、『天然とんこつラーメン』専門店として、現在、日本で76店舗、香港に2店舗、台湾に2店舗を展開され、ここニューヨークにも2016年10月にアメリカ1号店(ブルックリン店)、その後2号店(ミッドタウン店)、3号店(タイムズスクエア店)をオープンしております。”人種のサラダボウル”と表されるニューヨークには、世界中からレストランが進出してきていますが、その中でも、最も注目されているラーメンレストランの1つとして人気を集めています。今回は、一蘭グループの海外現地法人 ICHIRAN U.S.A., INC.を訪問し、ディレクターの米屋様にお話を伺いました。



1 米国進出の経緯

「本場・本物の味を世界へ」

一蘭グループは「とんこつラーメンを世界一研究する会社」として、世界中にとんこつラーメンを広げるべく、2007年にニューヨークに現地法人を設立しました。その想いから、他のラーメン店が現地スタイルに合わせていくなか、当時では米国人に馴染みのなかった「味集中カウンター」「FLAVOR FOCUS Booth」を提供する等、日本そのままの味・スタイルにこだわりを持ち、その実現のために、ブルックリンに約6店舗分の製麺が可能ない工場併設店舗を建設しました。オープン時は、常に200人以上の行列ができる熱狂ぶりです、現在でも、マンハッタンにオープンした2・3号店も含め、世界各国からのお客様でいつも賑わっています。今後、ニューヨークを中心に本場・本物の味を世界中の

お客様に提供していく計画です。

2 出店から現在まで

ブルックリン店のあるブッシュウィック地区は、当初は周囲に何もないエリアでした。立ち上げにあつてのインフラ整備、法律面や材料の輸入に関する規制、文化・考え方・習慣等、先進国のアメリカであつてもすごく高い壁でした。そのような環境のなか、食（とんこつラーメン）を通じて、世界に、日本を、福岡をアピールしたいとの強い信念をもって、無限の可能性があるアメリカ進出を成し遂げました。現在でも、「日本のクオリティをそのまま世界に届ける」、「幸せに満ちあふれた高い人間性を持つ人を育てる会社」であるために、人材育成から店舗マネジメントまで、現地社員の教育に力を入れています。

3 今後の展開

ICHIRAN U.S.A., INC.のニューヨークにおけるミッションは大きく2つあります。1つは、「本場・本物の味を世界へ」、2つめは「日本市場の縮小を見据えた将来への布石」です。多種多様な文化が混ざり合うニューヨークでチャレンジし成功することは、グローバル化の成功につながり、一蘭グループの海外戦略の未来を担うことになります。今後も更なる米国内での出店を検討しています。

最後に

日本とは異なる環境のなか、日本そのままの味・スタイルを提供していくことは簡単なことではありません。そのような厳しい環境ではありますが、「食」を通じて日本文化を世界にアピールして

いく」との強い信念をもって挑戦されています。今後ますます、本物のとんこつラーメンを世界に広めていけることと思います。

ニューヨーク駐在員事務所

蒲原 直樹(現：FFG営業統括部)



▲タイムズスクエア店



▲お土産商品[NY限定]一蘭とんこつラーメン

〈長崎創生プロジェクト認定〉 第1回長崎MICEスクール開講



▲認定書授与式 長崎 MICE スクールの長崎創生プロジェクト事業としての認定

2

019年11月18日(月)、

ホテルニュー長崎にて第

1回長崎MICEスクールが開
かれ、開講式が行われました。

MICEとは、企業等の会議
(Meeting)、企業等の行う報奨・
研修旅行(Incentive travel)、国際
機関・団体、学会等が行う国際会
議(Convention)、展示会・見本
市、イベント(Exhibition/Event)の
頭文字で、多くの集客交流が見
込まれるビジネスイベント等の総
称です。長崎市ではその受け皿と
なるMICE施設(名称:出島
メッセ長崎)が建設中で、開業は
2021年11月を予定しており、
それまでの2年間MICEビジネ
スを学ぶ場として本スクールを開
講することにいたしました(20
19年11月から2021年7月
までの計10回を予定)。

開講にあたり、FFG柴戸社
長の挨拶では、グループを挙げて
地方創生政策に関わる本スクー

ルの成功に向けた全面的なサポー
トを行うこと、2020年10月に
スタートする十八親和銀行の統
合効果やFFGが行う商談会、
スタートアップ企業の創業支援、
人材育成等により長崎経済発展
へのさらなる貢献を行うことと
し、今後より一層長崎市との
協力体制を築くことを表明しま
した。

次に長崎市の田上市長の挨拶
では、出島メッセ長崎が「交流の産
業化」として機能し、雇用の創出
と21世紀の交流都市を目指す取
り組みとして重要なポイントと
なること、本スクールがMICE
ビジネスについて学び、新たなビジ
ネスチャンスを掴むきっかけとな
ること、長崎市が目指す長崎創
生の実現に対する展望について語
られました。

本スクールが「長崎創生プロジェ
クト事業」として認定されるにあ
たり、認定書授与式が行われま

今月のTopics

Fukuoka Financial group



4



2



1



5



3

1. 開講挨拶 FFG 柴戸社長
2. 挨拶 田上長崎市長
3. 川島アソシエーツ代表 川島氏
4. 基調講演風景
5. 交流会風景

した。この認定制度は、長崎市が「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に適合した民間団体の新しい取り組みや今後につなげていく取り組み等を認定するもので、人口減少の克服と長崎創生にオール長崎市で取り組むための機運の醸成、及びその促進を図ることを目的としたものです。その後は、基調講演として川島アソシエーツ代表の川島氏より「MICEの産業構造と経済波及効果」という演題にて、MICEビジネスの現状と特性や、激化する地域間競争の中でのMICEビジネスの展望に関する講演が行われました。

最後に交流会が行われ、出席者全員がMICEを通じて長崎の活性化を図っていききたいという思いのもと、異業種の出席者の間で大いに盛り上がりを見せました。次回講義は2020年1月を予定しております。長崎市と

2019

出島メッセ長崎 開業までの スケジュール

8月2日 起工式

11月18日
第1回MICEスクール

11月28日～12月1日
開業2年前イベント

2020

1月17日
第2回MICEスクール

3月13日
第3回MICEスクール

5月15日
第4回MICEスクール

7月10日
第5回MICEスクール

11月13日
第6回MICEスクール

11月
開業1年前イベント

2021

1月15日
第7回MICEスクール

3月12日
第8回MICEスクール

5月14日
第9回MICEスクール

7月9日
第10回MICEスクール

11月1日
出島メッセ長崎開業

11月12日～14日
FFGこけら落としイベント

FFGは今後も協力してMICE都市構築の礎を築いてまいります。

職場におけるパワーハラスメント対策

I 職場のパワハラとは

職場のパワハラとは、「同じ職場で働く者に対して、職務上の地位や人間関係などの職場内での優位性を

本誌を参考に、今一度パワハラの基本的な考え方や現状を理解し、職場におけるパワハラ対策を再確認しましょう。

本誌を参考に、今一度パワハラの基本的な考え方や現状を理解し、職場におけるパワハラ対策を再確認しましょう。

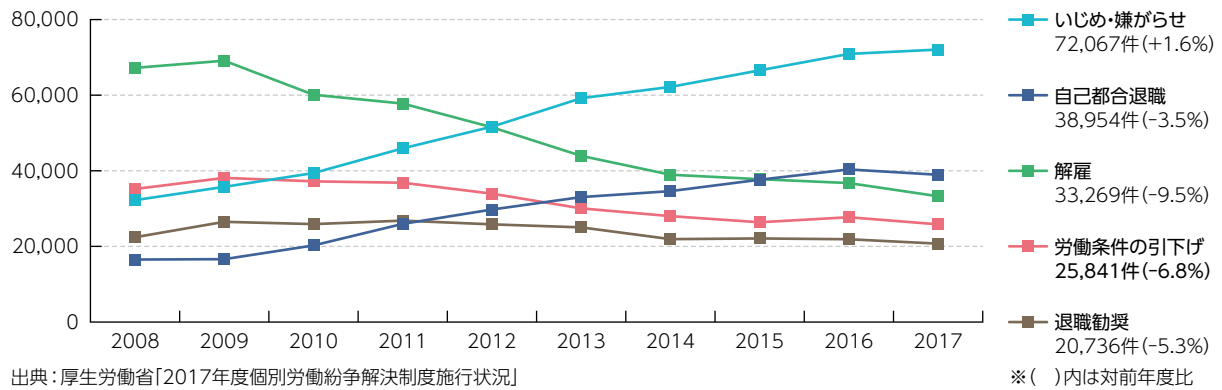
2018年12月の労働政策審議会（厚生労働省の諮問機関）において、企業に職場のパワーハラスメント（以下、パワハラという）の防止措置を講じるよう法律で義務付けることなどを柱とした報告書が提示され、了承されました。この報告書を踏まえて法案が作成され、2019年の通常国会で提出される予定です。防止措置の具体的な内容は厚生労働省の指針で示されますが、行為者の処分規定や相談窓口の設置などが盛り込まれる見込みです。

背景に、業務の適正な範囲を超えて、精神的・身体的苦痛を与える又は職場環境を悪化させる行為をいいます。（※1）
この定義においては、左記が明確にされています。

- 上司から部下に対するものに限られず、職務上の地位や人間関係といった「職場内での優位性」を背景にする行為が該当すること
- 業務上必要な指示や注意・指導が行われている場合には該当せず、「業務の適正な範囲」を超える行為が該当すること

出典：厚生労働省「職場のパワーハラスメントについて」
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000126546.html>

【図表1】民事上の個別労働紛争：主な相談内容別の件数推移（10年間）



Ⅱ パワハラの実状

それでは、職場のパワハラの実状はどうでしょうか。都道府県労働局等に寄せられる「いじめ・嫌がらせ」に関する相談は年々増加し、2012年度以降すべての相談の中でトップの件数となっており、今なお増加傾向にあります（図表1参照）。

2016年度に厚生労働省が実施した「職場のパワハラスメントに関する実態調査」（以下、実態調査という）によると、「過去3年間にパワハラに該当する事案のあった企業」は回答企業全体の36.3%、「過去3年間にパワハラを受けたことがある」と回答した者は回答者全体の32.5%であり、多くの企業、労働者にとってパワハラが身近で現実的な問題であることが明らかになりました。このように、国はポスター・リーフレット等の配布やポータルサイトの運営等による周知・啓発を行ってきましたが、

抜本的な対策が必要として、冒頭で触れた法制化の運びとなりました。

Ⅲ 職場で求められるパワハラ対策

職場でパワハラが起こった場合、企業は、使用者責任（民法715条）や安全配慮義務違反（労働契約法5条）などにより、責任を問われる可能性があります。また、実態調査では、「パワハラが職場や企業に与える影響」の調査結果として、「職場の雰囲気が悪くなる」（93.5%）、「従業員の心の健康を害する」（91.5%）が挙げられており、パワハラによる職場環境の悪化、従業員の心身の不調や能力発揮の阻害などが懸念されています。

それでは、企業はどのようにパワハラ対策を進めていけばいいのでしょうか。対策の基本的な枠組の構築には、図表2の7つの取組について実施するとよいでしょう。実態調査では、企業が効果を実感できた取組として、

「管理職を対象にパワハラについての講演や研修会を実施した」（74.2%）、「一般社員等を対象にパワハラについての講演や研修会を実施した」（69.6%）が挙げられています。

厚生労働省は、パワハラ対策についての総合情報サイト（※2）にて、パワハラの裁判事例や取組事例、対策導入マニュアルなどを公開しています。パワハラ対策の検討にあたっては、これらも参考にされることをお勧めします。

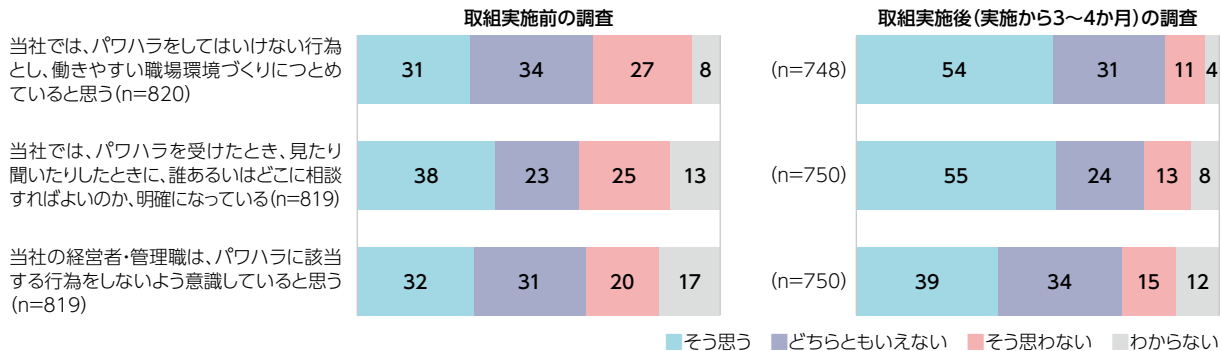
図表3は、パワハラ対策の実施前と実施後に、職場環境について調査したのですが、取組を実施することで、パワハラに関する職場環境の改善や従業員の意識が向上していることが見てとれます。実際に実態調査でも、パワハラ予防・解決のための取組の効果として、取組実施企業の多くで、「管理職の意識の変化によって職場環境が変わる」（43.1%）、「職場のコミュニケーションが活性化する／風通しが良くなる」（35.6%）が挙げられています。

【図表2】基本的なパワハラ対策として取り組むべき項目

予防するために	① トップのメッセージ	■組織のトップが、職場のパワーハラスメントは職場からなくすべきであることを明確に示す
	② ルールを決める	■就業規則に関係規定を設ける、労使協定を締結する ■予防・解決についての方針やガイドラインを作成する
	③ 実態を把握する	■従業員アンケートを実施する
	④ 教育する	■研修を実施する
	⑤ 周知する	■組織の方針や取組について周知・啓発を実施する
解決するために	⑥ 相談や解決の場を設置する	■企業内・外に相談窓口を設置する、職場の対応責任者を決める ■外部専門家と連携する
	⑦ 再発防止のための取組	■行為者に対する再発防止研修等を行う

出典：厚生労働省「職場のいじめ・嫌がらせ問題に関する円卓会議ワーキンググループ報告書」

【図表3】パワハラ対策の取組実施前後の職場環境の変化



出典：厚生労働省「パワーハラスメント対策導入マニュアル(第3版)」をもとに編集

回答取組実施企業：取組実施前の調査／7社874人
取組実施後の調査／7社780人、%

IV まとめ

今後、法制化によりパワハラ防止措置が企業に義務付けられることになりませんが、「法律ができたから」ではなく、従業員の心の健康を確保し、職場の生産性を最大化させること、すなわち「健康経営」の取り組みの一環としてパワハラ予防・解決に積極的に取り組むのはいかがでしょうか。

(※1) 厚生労働省「職場のパワーハラスメントの予防・解決に向けた提言」

(※2) 厚生労働省「あかるい職場応援団」

<https://www.no-harassment.mhlw.go.jp>

本記事は、東京海上日動火災保険株式会社の「WINプラザ」2019年2月号からの出典／転載となります。

WINプラザは、東京海上日動火災保険株式会社が運営する会員組織「WINクラブ」(入会金・年会費無料)の会員情報誌です。WINクラブならびにWINプラザに関心がある方は、WINクラブ事務局までご連絡を宜しくお願い致します。

「第10期FFG次世代経営塾」を開講



▲デール・カーネギー・トレーニングジャパン株式会社の石原氏による講義風景

2

019年10月18日(金)、
福岡銀行本店4階のセ
ミナールームにおきまして、「第10

期FFG次世代経営塾」を開講
いたしました。

「FFG次世代経営塾」は、
FFG4行のお取引先企業の若
手経営者や後継者の方々を対象
に、経営に役立つ幅広い知識の
習得と、経営者同士のネットワー
ク作りを目的としています。

初回は、「人を動かす」経営
というテーマで講義があり、今後
の経営に活用できそうな内容
に、塾生は真剣な眼差しで聞き
入っておられました。

11月以降は「コンプライアンス」、
「リーダーシップ」、「事業開発」、
「人材マネジメント」、「人事評価制
度」、「組織マネジメント」について
学んでいただきます。講義後の懇
親会では、異業種交流で盛り上
がり、親交を深めていただきました。

た。1～9期の卒業生と10期の塾
生が集まる懇親会も12月に予定
されています。

FFGは今後も「あなたのいち
ばんに。」のスローガンのもと将来
を担う地元経営者のために有益
な情報の提供に努めてまいります。



▲講義後の懇親会の様子



▲開講の挨拶をするFFGビジネスコンサルティング社長

みんなの応援を追い風に、
金メダルを取りたい！

九州の星

Star of Kyushu

| 52 |

頑張るあなたを
応援するコーナーです



江の島ヨットハーバー沖にて。セーリング男子470級の東京五輪日本代表に内定した外園さん(手前)&岡田さん組

セーリング男子 470級
東京五輪日本代表内定（JＲ九州社員）



特急「かもめ」の前で敬礼する外園さん

外園 潤平

HOKAZONO JUNPEI

Age 28

鹿児島市出身

九州旅客鉄道株式会社 社員

セーリング選手



指差し確認をする外園さん（イメージ）



五輪代表内定会見。岡田奎樹さん&外園さん（右）組

セーリング日本代表に内定

帆が受ける風の手だけで海上を滑走するセーリング競技。この競技で2020年東京五輪日本代表に内定したのが、JＲ九州社員の外園さんだ。

セーリングとの出会いは高校時代に入ったヨット部だった。「風だけの力で走っていく爽快感や自然と一体になる感覚にのめりこんでいきました」。強豪の日本経済大学に進み、主将も務めた。

大学卒業後はJＲ九州に入社し、駅員や車掌を務めた。「当時は月に1回程度海に出るくらい。筋トレで体力を維持していました」。一般と同じ勤務だった

為、職場のサポートが心強かった。「大会に出場するときは、同僚が不満もいわず勤務変更してくれたので感謝しています」

競技人生の転機は2016年度のナショナルチームの選考会で代表入りしてからだ。会社から勤務免除の支援を受け、競技に専念。現在は神奈川県に移り、五輪会場の江の島ヨットハーバーを拠点として練習に励んでいる。

「目指すは金メダル！」
みんなの応援を動力源に、東京五輪へ向かって力強く舵をさる。

佐世保愛する 心意気



今年も開催されました

第22回YOSAKOIさせぼ祭り

2019年10月18日(金)から20日(日)まで開催された「第22回YOSAKOIさせぼ祭り」。市内14会場、約170チームが参加する国内でも有数の大規模なよさこい祭りに、初めてFFG(ふくおかフィナンシャルグループ)として参加しました。

チーム名は「FFG 輝~Kirari~」

昨年まで「親和銀行 輝~Kirari~」として20回出場し、過去3度大賞に輝いた実績を持つチームに、今年から十八銀行、福岡銀行の行員が合流。親和銀行51名、十八銀行16名、福岡銀行2名の総勢69名のメンバーが参加し、10月の本番に向けて7月から週2、3回の練習を重ね出場しました。

今年のチームは『結(むすぶ)』をテーマに、銀行の垣根を越え、「佐世保愛する心意気」の掛け声のもと、地元の皆様への熱き思いを胸に、最高の演舞を披露しました。一体となった演舞により、見事ファイナルステージ進出の18チームにも選ばれました。

これからもFFGは「あなたのいちばんに。」のブランドスローガンのもと、地元と共に歴史を刻み、身近に感じられる銀行を目指してまいります。

